

彼らの不安を小さくするために

旧世代、今年こそ行動の時



昨年暮れ、大学生約250人に経済成長についての考えなどを尋ねる、アンケートをする機会があった。若者たちは経済成長が必要だと回答する一方で「経済成長が可能か」という質問には否定的な見方を示した。

この世代は経済成長を生活実感として経験していない。しかし、それが必要だと言われていることは理解している。半面、資源の制約などもある。成長なんてできない相談だ」と知っている。経済成長にこだわり続けている旧世代よりも「何事にも限度はある」とさりりと答える若者たちの方が頼もしく見えてくる。彼らは高度成長を経て現在

に至る日本のたどった道筋を否定しているわけではない。高度成長期に比べれば、はるかに自由に暮らせるようになっていて、技術の進歩が生活の利便性を高めている、日常の衣食住でも、将来の進路についても選択肢が増えているなど、経済発展の成果を評価している。

大学生らしく、昔の学生たちよりも、より進んだ学問の成果を学べるのは素晴らしいと答えるものもある。他方で、卒業後の就職への不安を抱えていることも率直に打ち明ける。そう答えるとき、彼らは経済成長も必要かもしれないという戸惑いの中にいる。こうした若者たちの考え方

を真摯に受け止め、適切な未来像を提示することができのうだろうか。彼らの可能性をどのようにしたら生かすことができるのか、どのようにしたら彼らは思う存分に翼を広げて羽ばたくことができるのか、そして、彼らの不安をどのように小さくすることができるのか。

心に響いていない

70年前、戦争の惨禍から立ち上がった時、多くの大人たちが、再び若者を戦場に送る国にしないことを誓い、経済発展に邁進してきた。その恩恵を受けてきた旧世代が、若者たちの不安をかき立てるような愚行を繰り返している。

いわく、少子高齢化による労働力不足と先細る社会保障、財政破綻、そして隣国との緊張の高まり。不安をかき立てて不満が高じれば、それに迎

合した激しい言葉を投げ掛けて政治的基盤を固める。マツチポンプというポピュリズムの真骨頂が国内政治世界を跋扈している。

しかし、経済成長という教義は若者たちの心に響いていない。

彼らは選択肢が多くなったことを歓迎しているが、それはそれぞれが持つ多様な価値観に沿って、自分なりの生活を送れるようになったことを評価しているからである。

モノがあふれるほどに豊かになることは望んでいないし、稼ぐことを優先的に考えているわけではない。多様な生き方を尊重しようとする若者たちの志の中に彼らの未来がある。これに正面から向き合せて、彼らの目指す未来の構築に力を添える時が来ている。今年がその元年になることを期待したい。

(東京大名警教授 武田晴人)